

「メルハバ！！ービンギョル地震2003・5ーNO 2」

ビンギョル地震で倒壊した寄宿舎の下敷きになっていた最後の行方不明者が遺体として発見されたという報道が、昨晚ありました。

昨日佐々木・シナン・Alper（アルペル）＝オーちゃん弟の3名が到着したビンギョル南のDiyarbakir（ディアルバクル）は、海拔670^m。ビンギョル市は海拔1152^m（六甲山より高い）

3人は、空港からのタクシーの運転手に「地震の救援に来たのか？」と言われ苦笑いをしたそうです。→ひょっとして支えあいの文化??

*ニュースNO1がいきなり長い内容になり、ご迷惑をお掛けしたと思います。ことトルコに関してはどうしても思い入れが強くなるのです。ご了解下さい。さて、NO1に張り付けさせて頂きました佐々木康哲からの第一報「折り鶴を折る少女たち」、ほんとに私たちに勇気を与えてくれます。折り鶴ってこういう役割をするんだ。→支えあいの連鎖パート3（折り鶴を折ってくれた14才たちの写真はメールでは送れませんのでHPにアップします。でも連休明けになります。）

*3人がDiyarbakir（ディアルバクル）で入手した被災地ビンギョルの様子は次のようなものです。

- 1, ビンギョル市は戒厳令下に近い緊張状態にあるようです。
 - 2, Diyarbakir（ディアルバクル）周辺のレンタカーは全部出でしまっている。
 - 3, 被災地域の住民と当局との衝突があり、軍が発砲したこともありビンギョルまでの道路の途中に何度も検問が予測される。
- 当初、車が確保できないのでロバで行こうかと冗談とも本気ともつかないことをいっていたのですが、昨晚遅くに車は確保できたもようです。

*日本時間で午前8時というと、トルコ現地時間では夜中の1時頃で佐々木さんのライフスタイルからすると、すでに大量の現地情報が入っているだろうと待ち受けていたのですが今のところ新しい情報はありません。

<愛と望のテント>

1999年のマルマラ海地震の際、デリンジェの中で自発的に子どもたち同士で支えあおうということで出来た集まりで、彼女・彼ら達が活動の拠点にしていたテントのことを愛と望のテントという。その後、この中から数名を神戸に招待し、神戸の子どもたちとの交流をしました。当時の愛と望のテントの活動にはビックリさせることばかりで、KOB Eの経験から励ましに行ったつもりが励まされて帰ってきたほどです。当時、デリンジェ市の助役の一人アフメット氏は、ある席のスピーチで「彼女・彼らの存在は、デリンジェの誇りだ。出来るだけのことをしよう。」と涙ぐみながら言ったシーンを思い出す。

■募金について

募金にご協力して頂ける方は、下記の郵便振替口座にて、通信欄に「トルコ地震」と明記してください。なお募金全体の15%を上限として事務局運営・管理費に充当させていただきます。ご寄付を頂いた方のお名前は随時、同NEWSでご紹介させていただきます。

口座番号:00930-0-330579
加入者名:海外災害援助市民センター
*通信欄に「トルコ地震」と明記してください。